



第1次 (令和6年度からの10年計画) 別所地区支えあい活動計画

つながり合うことで みんなが安心して 暮らせるまち別所

この計画は、住民の皆さんで、地域の身近な暮らし・生活課題を話し合い、住民自身が望む理想的なまちづくりを実現するために、できることから取組を進めるための行動計画です。



別所町まちづくり協議会

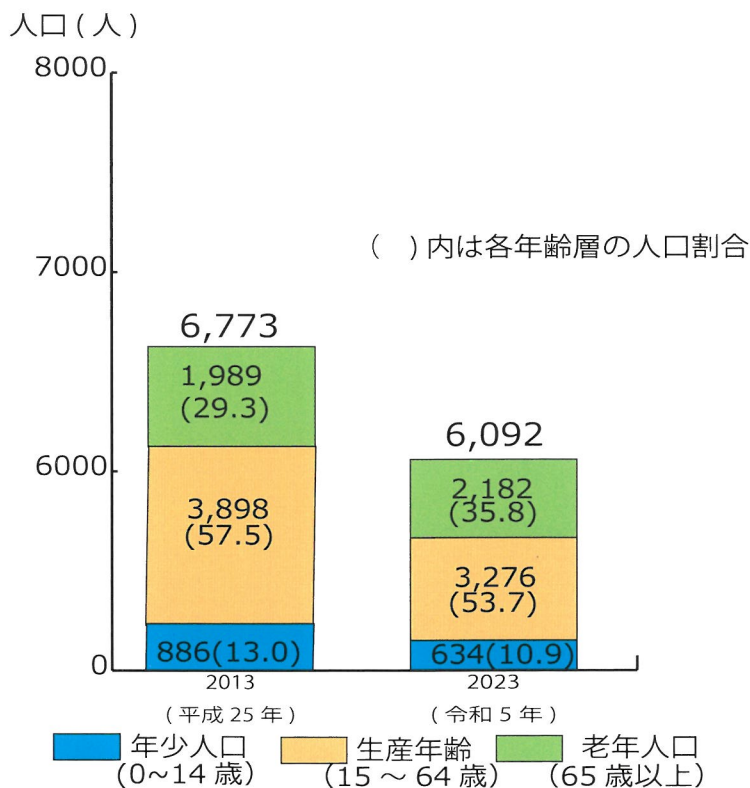
◎人口統計・推計から見えてくること

2013(平成25)年から2023(令和5)年までの10年間で681人の人口が減少しました。(グラフA)

令和4年3月策定の第4期三木市地域福祉計画によると、2031(令和13)年には人口が5864人となり、10年前の2021(令和3)年の人口から865人減少すると推定されています。(グラフB)

75歳以上の高齢者の割合は2023(令和5)年9月末時点で20.81%となっていますが、将来的には25%程度まで増加する見込みです。(グラフC)

グラフA 別所町の2013(平成25)年9月末の人口と
2023(令和5)年9月末の人口の推移

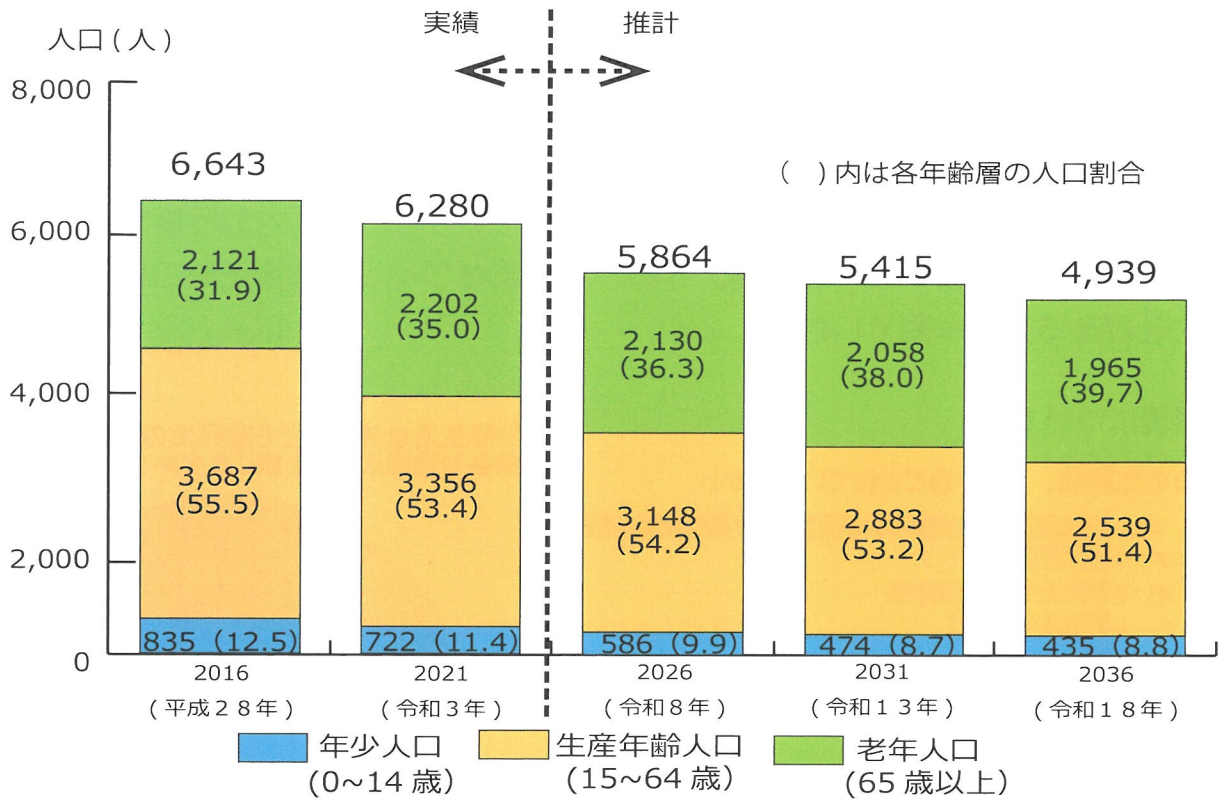


地域人口及び年齢3区分別人口

資料：住民基本台帳

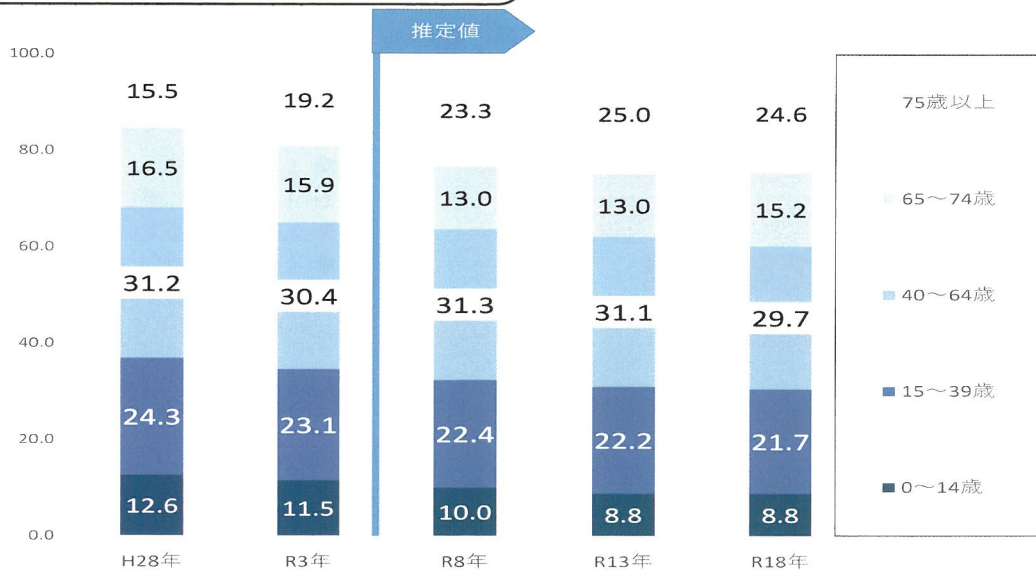


グラフB 別所町の人口の推計

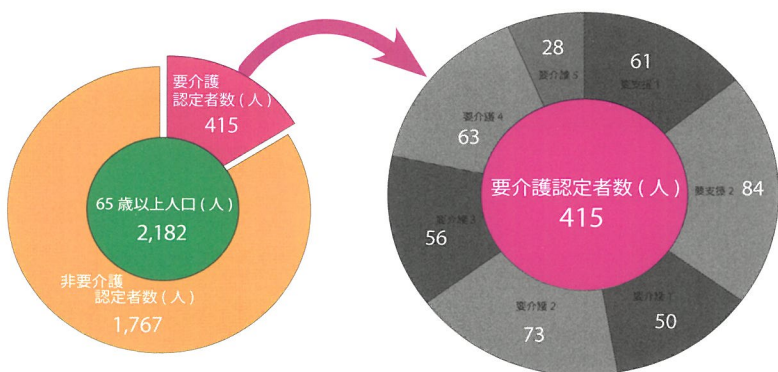


資料：第4期三木市地域福祉計画

グラフC 別所町の人口割合の推移



グラフD 別所町の要介護認定者



令和5年9月末現在の別所地区の65歳以上の要介護認定者数は415人。65歳以上の人口全体の約19%となっています。(グラフD)

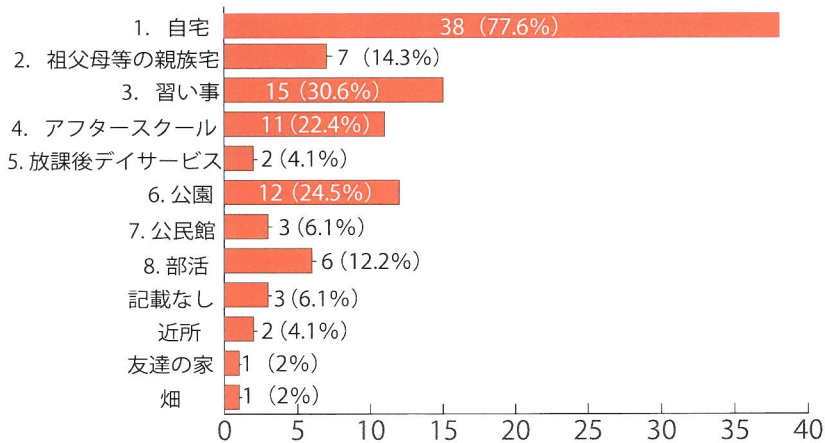
◎子育て世代の方を対象に行ったアンケートから見えてきたこと

令和5年12月18日～24日の7日間、子育て世代の方を対象に、子育ての状況や地域活動への関心や思いについて伺う「暮らしやすい町づくりにおけたアンケート」を実施しました。アンケートの回答は任意で、主に別所小学校、別所中学校に通う保護者の方々にご協力いただきました。

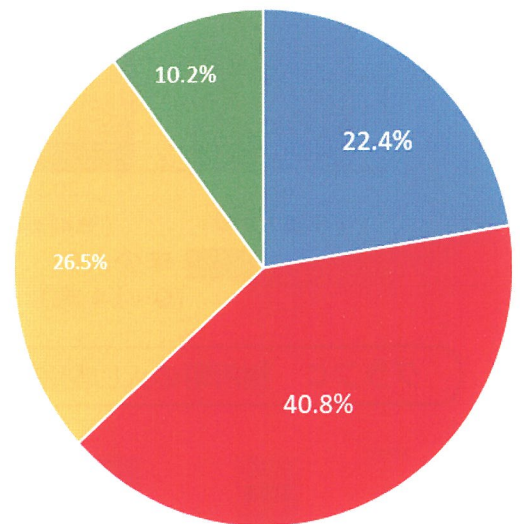
回答者の8割は母親で、30～40歳代の方がほとんどでした。地区内の行事やイベントに参加したことがあると答えた方は8割、そのうち、まちづくり協議会主催の納涼大会に参加したことがある方は9割でした。

●子育て環境について

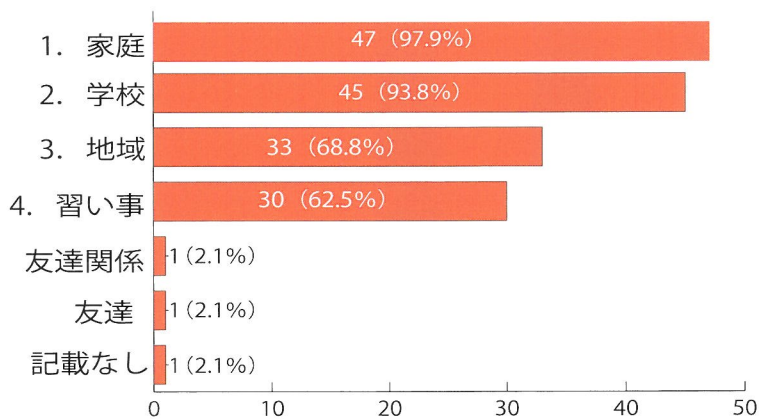
お子様は平日の放課後、どこで過ごされていますか。



学校生活以外で子ども達同士の交流ができる機会や場所があると感じますか？



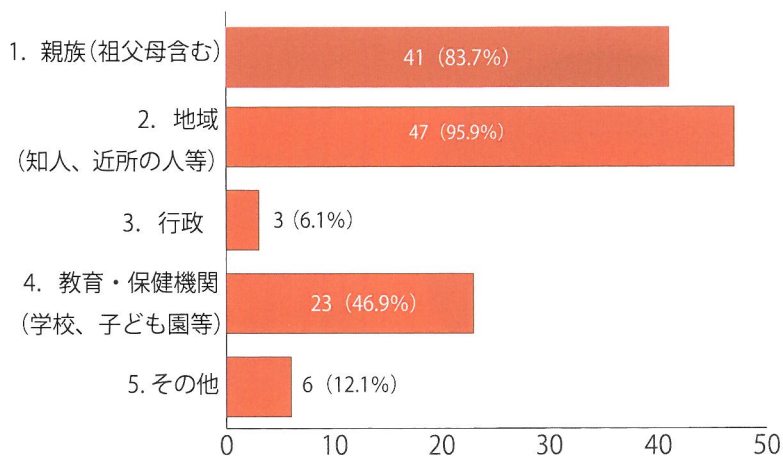
お子様の子育てに影響すると思われる環境を教えてください。



- 1. 感じている
- 2. それなりに感じている
- 3. あまり感じていない
- 4. 感じていない

放課後、自宅で過ごしている子どもたちが多いことが分かった一方で、学校以外で子どもたち同士が交わる場があると感じている方は、約6割でした。

お子様の子育てに関して気軽に相談できる先は誰ですか？

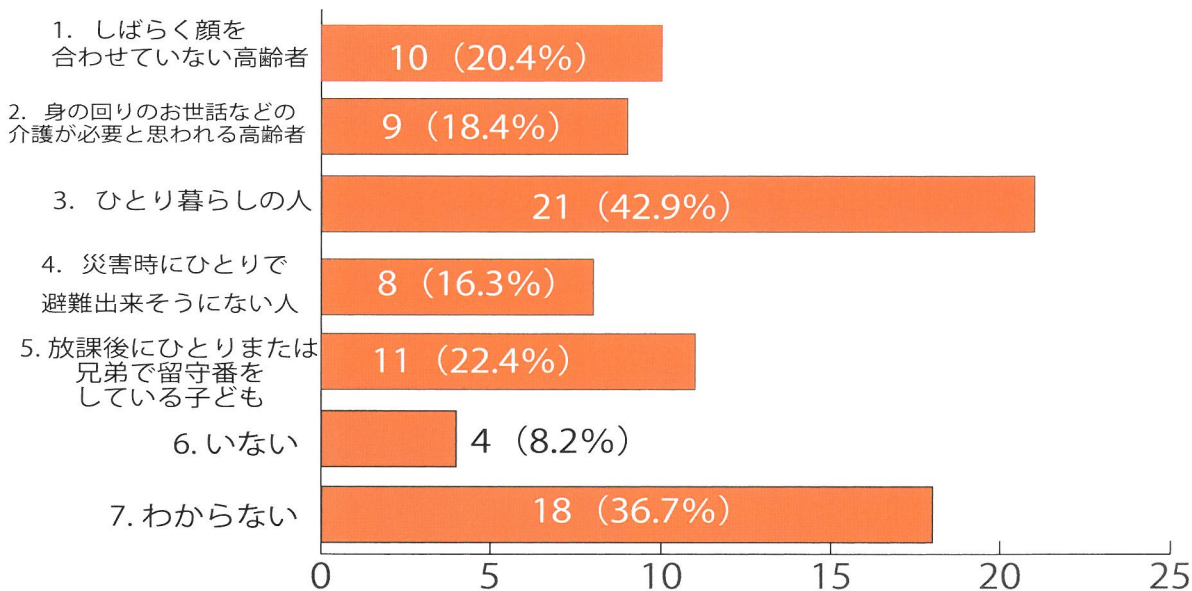


自由記述には、子どもが安心して遊べる場所づくりや幅広い世代が参加し交流できる機会、地域愛が醸成されるような教育などの意見が寄せられ、子育て環境に地域は欠かせず、つながりを持ちながら、より良い環境になっていくことを望む期待があると考えます。

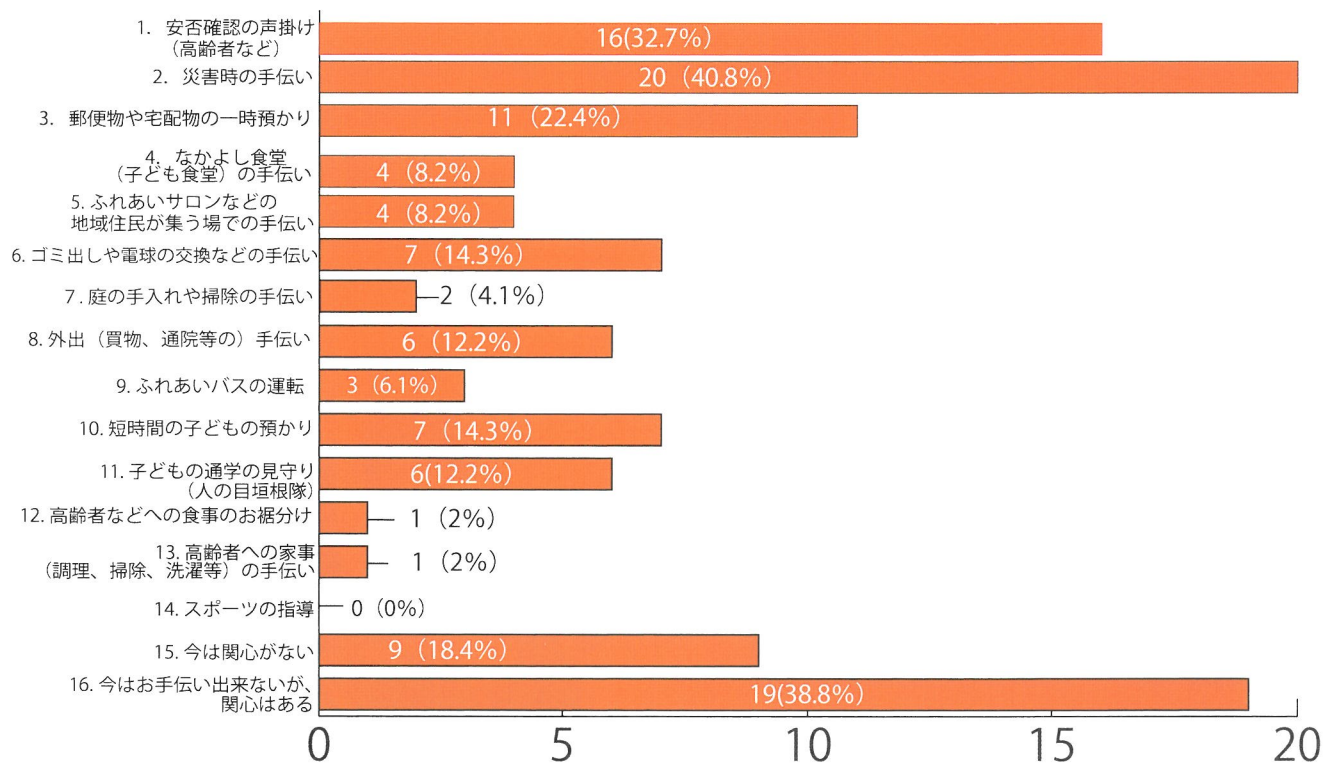
●地域づくりへの関心について

仕事や子育てと自分の時間が持ちづらい状況であることから、地域づくりに今は関心がなかったり、関心はあるけれど今は参画しづらいと答えた方が5割程度ありました。一方で、その方々も含め災害時のお手伝いや高齢者などの声かけについてはできると答えた方は多く、互いに気にかけて合いながらの地域での暮らしがあることがうかがえます。ご近所のひとり暮らしの人を把握されている方が多いこともその理由の1つと考えます。

あなたのご近所に次のような人はおられますか？



豊かな地域づくりを進めるうえで住民一人ひとりの参画は必要不可欠であると考えます。普段からあなたがご近所の人に行っていることや、頼まれた時にはお手伝いできると思う活動、参画できそうな活動を教えてください。



◎「マイおでかけ時刻表」の作成やふれあいバスの活用推進等の取組から見えてきたこと

北播磨医療センターへの直行便が減便、集約されたことにより将来的に他のバス路線も減便や廃線になるのではないかという危機感から、令和2年度に75歳以上の方を対象に移動の現状を知ることがを目的としたアンケートを実施しました。その結果、病院への往復だけでなく、買い物や公民館等での活動や交流に行くためにバスを利用していること、数年後には免許返納を考えている方が多いという結果が見えてきました。

そこで令和3年度、バスを日常的に利用する方へのインタビューや実際にバスに乗ってみるなどして、バス利用の状況を把握しました。そのような取組の中で、自分だけの時刻表を頼りにバスを利用している高齢者との出会いがありました。行きのバス停と時刻、帰りのバス停と時刻だけが書かれた時刻表からヒントを得て、住民がそれぞれのマイ時刻表を作成し、それを使いながらバスを利用して出かけられるようにするにはどうすればいいのかを話し合い、誕生したのが「マイおでかけ時刻表」です。完成した「マイおでかけ時刻表」を紹介し、自治会ごとに必要とする方を募ったところ、100人を超える希望がありました。

また、老人会や自治会、ふれあいサロン等で「マイおでかけ時刻表」を使って自分だけの時刻表を作ってもらいました。参加者からは「自分の最寄り駅がわかってよかった。」「行きたい先へのバスルートが理解できた。」「乗り方がわからないときや、困ったときに相談に乗ってくれる人がほしい。」「バスの運行数が少なくて、使いづらい。」「走っているバスの系統が分かりづらい。」などの意見がありました。



以上の取組から、ふれあいバスも含めたバス移動で通院や買い物をしている方がいること、人とのつながりや交流を求めてバス移動で出かけている方がいること、将来的にバス移動を考えている方が多くいること、移動も含めて自分にとって暮らしや生活に必要な情報や資源を把握しようとする方が多くいるということが分かりました。



下表は、令和4年度～令和5年度にかけて、別所町まちづくり協議会暮らし生活部会の話し合いで情報共有した「地域で気になる方、地域で気になること」に加え、別所地区にお住まいの方々を対象としたさまざまなアンケート結果に寄せられた意見を集約した内容の一部です。

別所町まちづくり協議会暮らし生活部会では、集約した地域課題に対し、解決に向けた取組について協議を重ねました。

気になること	暮らしに必要な情報が届いているのか	住民のつながりの希薄化	地域活動のこれからや住民同士の支えあい	外国人との暮らしの文化の違い
課題 (なぜ気になるのか)	<ul style="list-style-type: none"> ◎回覧板の情報を見ないで回すことがある。早く回さないと迷惑がかかるかも…と思う。 ◎回覧板や情報誌は、関心のある情報でなければ読まない。 ◎体調や暮らしぶりから回覧板を回しづらくなって「回さないで欲しい。」という申し出があることもある。そんな方ほど情報が必要なのではないかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎コロナ前と比べて活動や顔を合わせる機会が減ったのではないかな？ ◎反応がないお宅があり見に行った。最悪を想定して警察にも連絡をしたら行方が分かった。「知らん。」と言いながらも、みんな気にかけている。長期で不在となる時は声をかけ合ってほしい。 ◎出かける人はどこにでも参加しているが、出かけるににくい人の第一歩が難しい。 ◎新しく転入してくる家庭も多いが、つながるきっかけがない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎70代でも若手。これだけ高齢者が多くなると、何かしたいと思っても、何もできない。高齢者ができるレベルにしていくと、若い人には物足りなくなるのでは。 ◎区長など、役員の担い手がない。今まで通りのことを継続していくことは難しい。持続できる形に変えていく必要がある。 ◎高齢化が進んでいるので、清掃活動や行事等に若い方の力が必要。時代の変化に伴って、変えていかなければならない事もあるのでは。昔のままでは、参加してはくれない。 ◎農業の継続も厳しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎国の文化の違いから、外国人のポイ捨てが多い。

人のつながりの中で、情報を教えあったり、紹介しあったりしているよね

人は、出かけたり人と話をすることでいきいきするよね

年齢や状況に関係なく、自分のできる範囲でボランティア活動や、地域で何かをする人が増えるといいね

自分にとって、必要な情報がきちんと届けば、いろんなことに興味が湧くよね



農業を地域づくりやまちづくりに活かせないかなあ？

課題解決に向けて目指すところ、解決におけた具体的な活動についても話し合いました・・・

多くの住民が参加し、
話し合いながら取組を進める

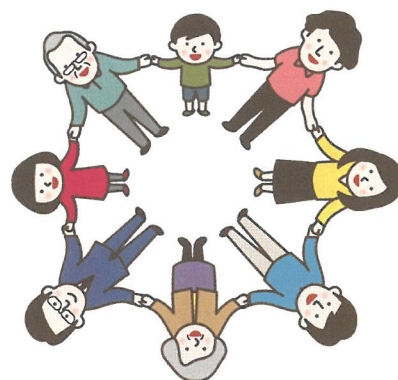
別所地区 支えあい活動計画

《 目標（目指すところ） 》

つながり合うことでみんなが安心して暮らせるまち別所

取組目標 1

あたたかいつながりを
感じる別所



地縁組織がない地域や存続していくことが難しくなっているコミュニティの現状があり、つながり合うきっかけが今までのようにつくれない状況が見受けられます。しかしながら、ひとり暮らしの人やしばらく顔を合わせていない高齢者を気にかける子育て世代の住民も少なくありません。

一方で、サークル活動や趣味の教室、ふれあい喫茶や地域食堂など、興味や関心事の活動の場や住民誰もが参加できる場も含めて、地域には多様な集いの場があります。

地域で暮らす住民一人ひとりが互いに見守り合うことの大切さに気づき、挨拶や声かけ、気になる方を気にかけることができる地域、集いの場を介したなじみの人間関係から生まれる自然な見守り合いや支え合いがある地域をめざし「あたたかいつながりを感じることができる地域づくり」を進めます。

取組目標 2

情報を伝え合う別所

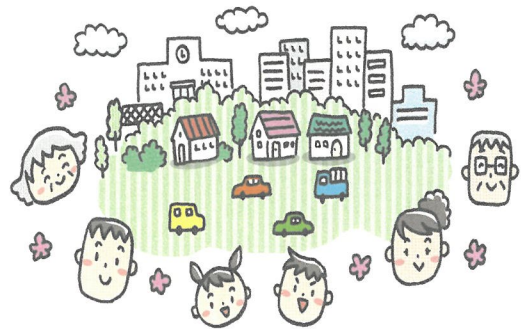


暮らしや生活の情報は、量が多く、変化も目まぐるしい状況です。回覧板等の情報伝達手段もありますが、文字の大きさや表現などが難しく、読み手に立ったものでないことも少なくありません。そのため、読まずに回す方も多く、必要な方に必要な情報が届いていないこともあると考えます。

もしかすると、知らないかもしれない。伝わっていないかもしれない。と意識しながら必要な方に必要な情報を伝える「情報を伝え合う地域づくり」を進めます。集いの場を活用した情報提供も取組の1つと考えます。なじみの人間関係があることにより、わからないことが聞きやすく、伝え合うというちょっとした支え合いが期待されます。

取組目標 3

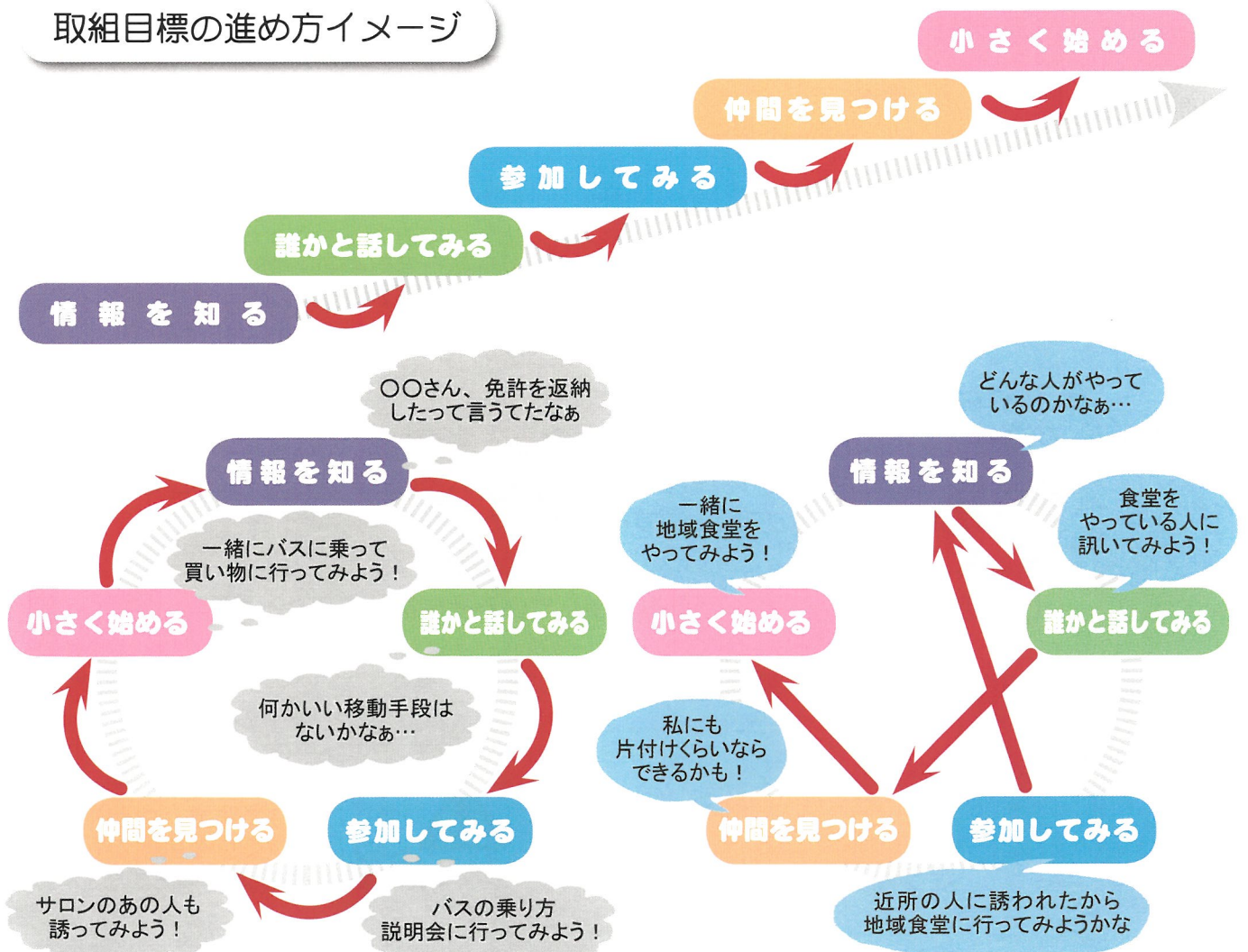
みんなで地域をつくる別所



高齢化が著しく、役員のなり手も含めて次世代がおらず、これまでのように地域の活動を続けていくことが難しい現状があります。一方で、何をきっかけとして活動すればよいのかわからないという方や、若い力の集め方やこれからの地域への参画のあり方を変えていく必要があると思っている方も少なくありません。地域づくりは、一部の地域活動者、あるいは行政、専門職だけで成していることではなく、これまで以上に幅広い主体が主役となって力を発揮することが必要です。

地域愛を醸成するためにも、子どもの頃から自分たちの地域は自分たちで守る、自分たちで創る意識を育む教育の機会づくりが地域社会に必要ではないかという意見もあります。今までもこれからも子どもたちと共に、学生、勤労者、外国人など地域との関わりが薄い層も含め、福祉分野の活動にとどまらず、産業、教育、防災、防犯、まちおこしなど、様々な分野の活動と地域福祉活動を関連付けた公益的で創造的な活動をしていく機会を多彩につくりながらみんなで地域をつくることを進めます。

取組目標の進め方イメージ



取組目標 1

あたたかいつながりを 感じる別所



具体的取組 1 - ①

自然な見守りがある地域づくり

【具体的な内容】

- あいさつ、声かけ、ゆるやかな見守りや気かけ合いがある地域にしていくには地域で暮らすみんながどんなことを意識しながらどんな取組をすればいいのかを検討します。

【進め方】 日ごろから見守り合い活動を実践されている方々やこれから取り組みたい方々、必要と感じている方々等と必要性やあり方の話し合いから始めます。

具体的取組 1 - ②

誰もが気軽に気楽に寄り集うことができる場づくり

【具体的な内容】

- 既存のいろいろな集い場の紹介や寄って集う良さを広く伝えます。
- お互いの顔が見える地域で、身近にいる人同士がつながることを意識したふれあいサロン等の集い場づくりを進めます。

【進め方】 ふれあいサロン活動を推進している社会福祉協議会と相談しながら進めます。



サロンとは・・・

閉じこもりを防ぎ、住民相互のつながりづくりを目的とした身近な地域の居場所です。地域住民が主体的に運営します。

取組目標 2

情報を伝え合う別所



具体的取組 2- ①

回覧板などの既存の情報提供の方法を考える

【具体的な内容】

- 回覧板など、既存の情報提供のツールが有効になる方法を試行も含め検討します。

【進め方】 暮らし生活部会で協議します。

具体的取組 2- ②

様々な理由で情報の入手や利用が難しい状況の方々にも暮らしの情報を伝えるように伝える

【具体的な内容】

- 必要な方に必要な情報が届くよう、日ごろの声のかけ合いの中で、情報提供や情報共有を意識して行います。
- 集いの場を情報提供や情報共有を行う場として有効的に活用します。
- 日ごろから情報が伝わりにくい方々は、災害時も伝わりにくいことから防災も意識しながら進めます。

【進め方】 ○地域防災研修で把握する災害時に何らかの支援が必要な世帯に対し、日ごろから声をかけ合う中で、必要とされる情報も伝えていけるよう仕組みづくりも含めて検討します。
○取組 1. あたたかいつながりを感じる別所と連動しながら進めます。

取組目標 3

みんなで地域をつくる別所



具体的取組 3- ①

既存にある活動に参加、参画しやすい環境づくり

【具体的な内容】

○行事やイベント等にやってみたいことなどに関わる機会をつくるなどして、できることで参画しやすい場面づくりを進めます。

【進め方】 まちづくり協議会や自治会、各種団体の行事やイベントで参加や活躍が増える機会づくりを検討します。

具体的取組 3- ②

子どもたちの生きる力を育む地域学習を実施する

【具体的な内容】

○地域のことを学びながら、子どもたちにできる子どもたちらしい活動を展開する機会をつくれます。

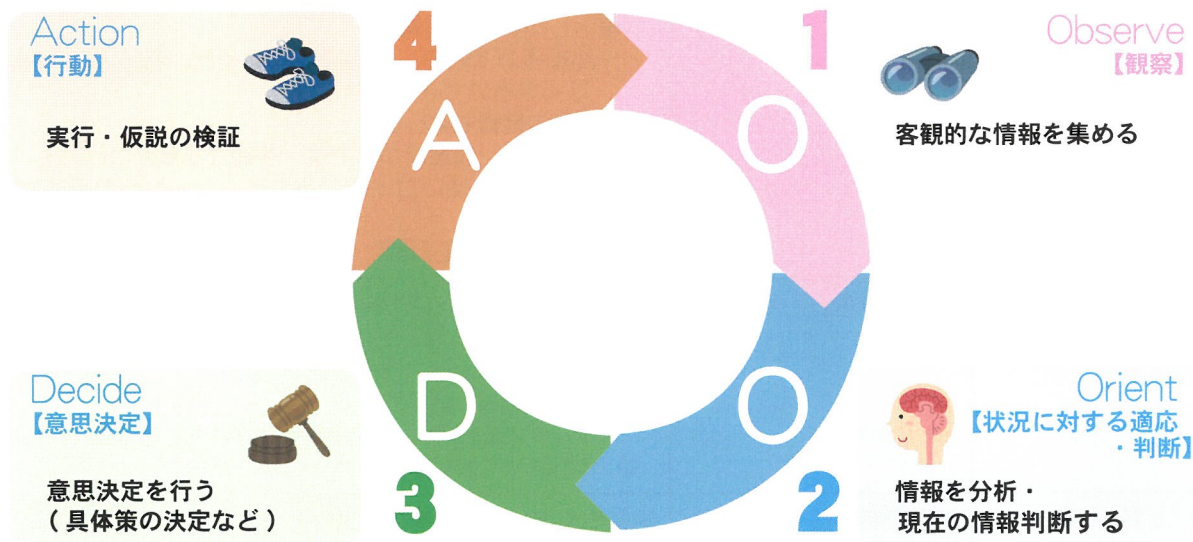
【進め方】 社会教育の推進を目的とする公民館と協議しながら進めます。

◆計画の進行管理◆

～協議と取組を進めると見えなかったことが見えてくる～

この計画は、住民の協議と参画により取組を行います。その際、計画策定時には見えてこなかった地域課題をはじめ、知らなかった社会資源の発掘等により計画変更があると考えられます。

そこで、計画進行において柔軟な判断や迅速な実行ができるウーダ（OODA）ループで管理し機動性を重視します。



ウーダ（OODA）ループとは・・・

OODA ループは、自由度が高く、変化に対応しやすい面があり、文字通りループであるため、必要に応じて途中で前の段階に戻ってループから再開したり、状況に応じて任意の段階からループをリスタートしたりできることが大きな特徴です。

1 ループする前に予想できない変化があれば、引き返して観察し直したり、異なるデータを集めて検討し直したりすることも可能です。

計画策定までの経緯

年月日	会議名	内 容
令和 4 年 9 月 16 日	第 3 回暮らし・生活部会	<p>地区支えあい活動計画の策定において地域の課題を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暮らしに必要な情報をどう伝えるか →回覧板は、関心のある情報でなければ読まない ・住民のつながり →コロナ禍で活動が縮小していたが、今年度はほとんどが再開している ・健康づくり →出かけることが元気につながっている →ボランティアや地域活動をする人が増えるとよい ・子育てしやすい地域づくり →新しく転入してくる家庭も多いが、つながるきっかけがない。自治会がないことが魅力だと感じる人も多い ・暮らしの環境の整備 →高齢者ができるレベルにしていくと、若い人には物足りなくなるのではないか →農業の継続も厳しい →納涼大会、農業まつりでは、生徒が司会をつとめていた ・ゴミの分別、重いゴミをゴミステーションまで遠くまで持っていくけない ・みんなで取り組む計画になるよう「スローガン」があるとよい
令和 4 年 11 月 22 日	第 4 回暮らし・生活部会	<p>地区支えあい活動計画の策定において地域の課題を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で気になる方、気になることの情報共有 →高齢化がすすみ、農業の継承が難しい →自治会のない地区もある →コロナで住民のつながりが分断されてしまった ◎ 10 年かけて取り組む目標や地域の姿のイメージを固める
令和 5 年 2 月 13 日	第 5 回暮らし・生活部会	<p>地区支えあい活動計画の策定において地域の課題を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のみり農協別所支店の統合（令和 7 年度中） ・他市のゴミが持ち込まれることがある ・コロナが第 5 類に変更になると住民の動きも徐々に戻ってくると思うが、「わざわざ活動しなくていいんじゃないか」という風潮はある ・中学校の部活の数が少ない クラブチームに入る子どももいる ・生活上の困りごとを一挙解決できる相談先・機関の集約 ・身近で小さな単位でのつながりをつくる ・ふれあいバスの活用
令和 5 年 8 月 1 日	第 2 回暮らし・生活部会	具体的な気になることやそこから見えてきた現状や課題の整理
令和 5 年 10 月 3 日	第 3 回暮らし・生活部会	具体的な気になることやそこから見えてきた現状や課題の整理
令和 5 年 11 月 18 日	バスの乗り方説明会	マイおでかけ時刻表を使って地区内のバス交通を知る（石野地区）
令和 5 年 11 月 21 日	第 4 回暮らし・生活部会	別所地区支えあい活動計画の策定について ・子育て世代向け「暮らしやすい町づくりにおけたアンケート」案について協議
令和 5 年 1 月 16 日	第 5 回暮らし・生活部会	別所地区支えあい活動計画（案）について ・アンケート結果から見えてくる課題 ・課題から取組目標を協議する
令和 6 年 1 月 30 日	運営委員会	「第 1 次 別所地区支えあい活動計画」（案）を提案

計画策定にあたり

新年早々の能登半島地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。また一刻も早い復旧・復興と一日でも早く日常生活が取り戻せることをお祈り致します。

さて、全国的に少子高齢化が叫ばれており別所地区におきましても少子高齢化が進んでおります。人口は10年前と比べますと1割減少の6,092人（令和5年9月現在）となりました。75歳以上の高齢者は実に5人に1人の割合となっています。別所町まちづくり協議会ではこのことを踏まえ「暮らし・生活部会」が中心となって各種調査およびアンケート等を実施し見えてきた地域課題の解決に向けて協議を重ね「つながり合うことでみんなが安心して暮らせるまち別所」をスローガンに「第1次（令和6年度からの10年計画）別所地区支えあい活動計画」を策定しました。

支えあうことの大切さを基本に、困ったことがあれば気軽に相談し合える、情報を分かりやすく伝え合える、温かい声を掛け合えることができる町をモットーに誰もが安心して暮らせる町をめざして活動してまいります。

小さな子供さんから大人・高齢者の方々そして外国人の方々の誰もが住み続けたいと思うような町づくりを各種イベント、各種講習・学習、地域活動等を通して実現できるよう取り組んでいきたいと思っております。

最後になりましたが、「第1次（令和6年度からの10年計画）別所地区支えあい活動計画」を策定するにあたり「ボランティア活動プラザみき」の皆様には大変お世話になり有難うございました。またご協力を頂きました関係者の皆様には心より感謝を申し上げ発行の挨拶とさせていただきます。

令和5年度
別所町まちづくり協議会
会長 稲岡英機

令和4年4月から地区の自治会長をすることとなり、併せて別所まちづくり協議会暮らし生活部会 部会長職を賜り活動内容をよくわからないままにやることと成りました。

別所地区に住んでおよそ50年、自治会の活動は仕事にかこつけて殆んど参加することはありませんでした。同じ自治会の方でも知らない方ばかりで、ましてや暮らし生活部会の方々は、ほとんどの方が初対面でした。不安なスタートでしたが、区長協議会・まちづくり協議会・暮らし生活部会・ボランティア活動プラザみき等、沢山の皆さま方の適切なお意見ご指導を戴き話し合いを進める事が出来ましたこと感謝の気持ちで一杯でございます。

2年間を通して強く感じたことは、人間一人では生きていけません。地域の皆さんとのつながりを大切に、今までお世話になった方々に感謝して「一期一会」を大事にしたいと思ったことです。

暮らし生活部会で学ばせていただいた地域の実情について、この先10年の別所地区の高齢化、過疎化、多世代交流、移動、環境、健康増進等の課題は沢山ありますが、この別所地区支えあい活動計画をよりよいものとし、明るく、楽しく、住みやすい別所地区を目指した活動がますます充実したものになりますように願っております。

令和5年度
別所町まちづくり協議会
暮らし生活部会長 高田敏明

《計画策定・発行》

別所町まちづくり協議会
2024年（令和6年）3月

《 編 集 》

三木市社会福祉協議会
ボランティア活動プラザみぎ